

梅田駅(阪急各線)

御茶屋と菜の花の道・茶屋町を歩く

大阪駅(JR環状線ほか各線) 梅田駅(阪神本線・地下鉄御堂筋線)

東梅田駅(地下鉄谷町線) 西梅田駅(地下鉄四つ橋線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.010



阪急梅田駅

①北向き地蔵

明治24年(1891)、この付近の畑から自然石に刻まれたお地蔵さんが掘り出されて信仰の対象となり、当時の地主が世話人となり、お堂を北向きに建立したのが由来です。昭和40年代に阪急梅田駅の移設拡張工事、阪急三番街の誕生により、お堂は西方へ約50メートル移転しました。



②歯神社

主祭神は歯神大神で、歯全般の神様として信仰されています。元々はここにあった巨石を地元民がお祀りしていたのですが、梅田一帯が水没するかという淀川の大氾濫を、ご神体の巨石が歯止めしたこと、歯止めの神様として慕われ、いつのころからか、「歯痛止め」「歯の神様」となりました。明治に入り、綱敷天神社の末社に加えられました。毎年6月4日に例祭(歯ブラシ感謝祭)を行っています。

③凌雲閣跡

明治22年(1889)に完成した木造9階建ての娯楽施設(展望台)で、高さは約39メートルありました。今宮村の眺望閣を「ミナミの5階」と呼んだことに対し、凌雲閣は「キタの9階」と呼ばれて大阪庶民に親しまれていました

が、残念ながら昭和初期に撤去されてしまいました。

④鶴乃茶屋跡

この付近は江戸時代後期から明治中期にかけて、大阪の一大行楽地であり、鶴、萩、車という茶屋が並んで大いに賑わいました。茶屋町という地名は当時の名残です。鶴乃茶屋は、2羽の鶴がいたことがその名の由来とされています。鶴乃茶屋前の道は、能勢街道、中国街道にあたっていて、綱敷天神社の社前付近から屈曲した道が、かつての旧街道の面影を色濃く留めています。

⑤綱敷天神社御旅社

菅原道真が大宰府へ左遷される際、この地で咲いていた紅梅に目を留め、それをよく見るために船の艫綱(陸と船をつなぐ綱)を円座状に敷いたことから、のちに綱敷天神社と名づけられた

といます。本社は約800メートル南東の地に御鎮座しています。



⑥与謝蕪村句碑

与謝蕪村(1716~84)は、江戸時代中期の俳人・画家で、大坂の毛馬村に生まれました。「菜の花や 月は東に 日は西に」という句は、安永3年(1774)につくられた句です。江戸時代から明治初年のころまでは、蕪村の故郷の毛馬から天満、茶屋町にかけてはあたり一面、菜の花畑でした。20歳のころに毛馬村を出て一度も故郷に帰らなかったという蕪村が、故郷の原風景を思い浮かべて詠んだのでしょうか。

阪急梅田駅

